

令和4年度 東京都内湾水生生物調査 2月鳥類調査 速報

●実施状況

令和5年2月20日に鳥類調査を実施した。天候は晴れで、気温10.7～12.7℃、北～東の風、風速1.9～4.1m/secであった。調査当日は大潮で、干潮が11時19分(77cm)、満潮は16時46分(197cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚(東なぎさ)	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
作業時刻	8:59-10:52	11:47-12:36	13:05-14:17
天候	晴	晴	晴
気温(℃)	10.7	12.4	12.7
風向	北	北東	東
風速(m/sec)	4.1	2.2	1.9
備考	調査開始時は潮が高く、干潟の干出面積が少なかった。	潮が高く、干潟の干出面積は少なかった。	第六台場周辺は波が高く、うねりが大きかった。海浜公園側の砂浜でユリカモメへ給餌していると思われる人が見られた。

●主な出現種等

	葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
数が多かった 鳥類上位2種	カンムリカイツブリ (12973羽) スズガモ(4305羽)	コガモ(221羽) ヒドリガモ(45羽)	カワウ(1249羽) スズガモ(721羽)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として、17種を確認。(トモエガモ、クロツラヘラサギ、ヒクイナ、シロチドリ、ハマシギ、ミサゴ、等) ・干潟は時間とともに広がり、シロチドリとハマシギの群れが採餌。 ・海上でスズガモとカンムリカイツブリの群れが休息、ほとんどが沖合に分布する。沖合を合わせたカンムリカイツブリの個体数は過去最多の12973羽。 ・トモエガモを範囲内と沖合で確認。本調査で初記録。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として、7種を確認。(ミサゴ等) ・干潟は狭く、ユリカモメとセグロカモメ、トビが休息したのみ。 ・カモ類は8種を確認。調査地北東側の京浜島付近でオカヨシガモやコガモが休息、南西側の護岸上でコガモが休息、南側の水面でオナガガモやヒドリガモが採餌。 ・ヨシガモ1羽が南側の水面で採餌。本調査で初記録。 ・ミサゴ1羽が杭の上で休息。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として、9種を確認。(オオバン等) ・第六台場と鳥の島でカワウが営巣していた。第六台場で351巣、鳥の島で103巣を確認。アオサギは飛来を確認したが、営巣は見られなかった。 ・カモ類はスズガモ、ホシハジロ、ウミアイサの3種で、お台場海浜公園から鳥の島付近の水面で休息。 ・ユリカモメはお台場海浜公園に多く、浜辺で人為的な給餌が行われていたと思われる。

<葛西人工渚(東なぎさ)>

○調査地点の状況

干潟は狭く、調査中に徐々に広がっていった。



○出現種(クロツラヘラサギ)

過去最多となる4羽のクロツラヘラサギが東なぎさの消波ブロックで確認された。観察中は休息したままで、干潟が干出しても目立った動きはなかった。本種は種の保存法で国内希少野生動物種、環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠB類(EN)、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定されている。



○干潟利用状況

調査中、干潟が徐々に干出して広がっていったが、利用する鳥類は少なかった。シギ・チドリ類はシロチドリとハマシギが干潟で採餌、タシギがヨシ原付近から飛び立つのが確認された。シロチドリは環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠA類(CR)、ハマシギは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、タシギは東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。このほかにはアオサギとコサギ、セグロカモメ、カモメが少数見られたのみ。



○海面の状況

カンムリカイツブリとスズガモの大きな群れが見られた。ただし群れの大半が沖合に分布し、カンムリカイツブリは沖合 12885羽、範囲内 88羽、スズガモは沖合 4270羽、範囲内 35羽であった。沖合を含めたカンムリカイツブリの個体数は過去最多の 12973羽で、令和2年度の 6312羽、令和3年度の 6247羽と比較して約2倍となっている。このほか、本調査初記録のトモエガモが範囲内で9羽、沖合で9羽見られた。スズガモとカンムリカイツブリは東京都レッドリストで留意種に、トモエガモは環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドリストで情報不足(DD)に指定されている。



<森ヶ崎の鼻>

○調査地点の状況

最大干潮時刻だが、干潟は狭かった。



○出現種(カモ類)

オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロの 8 種が確認された。本調査で初記録のヨシガモは東京都レッドリストで絶滅危惧 I B 類 (EN)、ホシハジロは東京都レッドリストで絶滅危惧 II 類 (VU) に指定されている。調査地北東側の京浜島付近の護岸でオカヨシガモやコガモが休息、南西側の護岸上でコガモが休息、南側の水面ではオナガガモやヒドリガモが採餌していた。

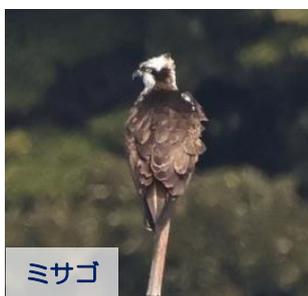


○出現種(タカ類)

ミサゴとトビが確認された。ミサゴは環境省レッドリストで準絶滅危惧 (NT)、東京都レッドリストで絶滅危惧 I B 類 (EN)、トビは東京都レッドリストで準絶滅危惧 (NT) に指定されている。

○干潟利用状況

干潟は狭く、ユリカモメとセグロカモメ、トビが降りて休息していた。ユリカモメの群れは落ち着かず、時々飛び立っては再び干潟に戻ってきた。また、船の接近に驚いて飛び立ったアオサギが一時的に降りることもあった。



ミサゴ



干潟で休息するユリカモメとセグロカモメ (矢印)

<お台場海浜公園>

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島でカワウが多数営巣していた。

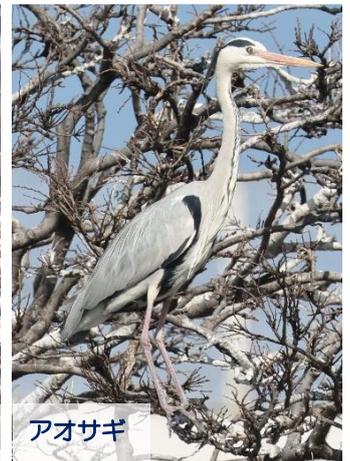


○出現種(カワウ)

カワウが抱卵・育雛中で、第六台場で 351 巣、鳥の島で 103 巣、合計 454 巣を確認した。1 月の調査では合計 660 巣なので、営巣数はやや減少している。第六台場と鳥の島では大きく育ったヒナの姿や、巣立った幼鳥が多く確認された。目視できたヒナの数第六台場で 21 羽、鳥の島で 8 羽であった。アオサギは第六台場の樹林中で 8 羽、鳥の島で 4 羽が確認され、婚姻色を呈する個体もいたが、営巣に関わる行動は見られなかった。



カワウのヒナ(手前)と成鳥



アオサギ

○出現種(カモ類)

ホシハジロ、スズガモ、ウミアイサの 3 種が、お台場海浜公園から鳥の島にかけての海上で見られた。スズガモがもっとも多く、合計 721 羽が休息していた。ウミアイサは東京都レッドリストで情報不足(DD)に指定されている。



スズガモ



ホシハジロ



ウミアイサ

○出現種(カモメ類)

ユリカモメは鳥の島で 49 羽、お台場海浜公園の砂浜付近で 179 羽が確認された。砂浜には多くのユリカモメが上陸して、人の周りに集まる様子が見られた。他のカモメ類の個体数は少なく、ウミネコが 3 羽、セグロカモメが 1 羽のみであった。



ユリカモメ



ウミネコ



セグロカモメ

<その他>

○ウミネコの繁殖

砂町運河で 27 羽のウミネコが確認された。構造物にとまる個体も見られたが営業は始まっていなかった。



ウミネコが営業していた構造物



夏羽に変化したウミネコ



構造物上にとまるウミネコ



<トピックス>

-初記録のカモ類 2 種-

今回の調査でトモエガモとヨシガモの 2 種が初めて記録された。トモエガモは葛西人工渚の沖合に浮かぶカンムリカツブリとスズガモの群れに計 18 羽が入っていた。本種は河川や湖沼に生息し、多摩川河口や三番瀬など東京湾岸でも稀に記録されることがある¹。ヨシガモは森ヶ崎の鼻でヒドリガモやオオバンとともに採餌するオス 1 羽が見られた。東京湾では木更津市の小櫃川河口でヨシガモの個体数が多いが¹、湾奥部でも少数が生息し、例えば葛西海浜公園・葛西臨海公園では毎年のように確認されている²。

範囲内の東なぎさ上空を飛翔する
トモエガモ



森ヶ崎の鼻で確認されたヨシガモ



沖合海上に浮かぶトモエガモの群れ

¹ 桑原和之・箕輪義隆・石黒夏美・嶋田哲郎(編), 2000. 東京湾の鳥類. たけしま出版, 流山.

² 川内博(編), 2014. 葛西鳥類目録 Ver1-葛西臨海公園・葛西海浜公園の鳥 1994 年~2013 年-. 日本野鳥の会東京・研究部, 東京. (編)